

令和2年 12月市長定例記者会見

日 時：令和2年12月2日（水） 午後2時～

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
時事通信社、庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
未来創造課長、商工企業立地課長、道路課長、
生涯学習・スポーツ課長

○質疑応答の概要

Q 1. 市の新型コロナウイルス感染症対策についての総括的な考えを伺いたい。

A 1. 新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けているそれぞれのご家庭や市内中小企業への支援として、「子育て世帯応援臨時給付金」や「市内中小企業等への事業継続支援金」、「いみずうまいもん券第2弾」など様々な取組をしている。基本的な考え方としては、国や県においても様々な支援策や対策がとられているが、市としては市民や市内の事業者が一番近いスタンスで、国や県の支援が及ばない、支援の狭間にあるような方々を意識しながら、支援などの制度をつくり、実施・展開をしている。12月定例議会で補正予算案も提案することになっているが、中には、見込んでいたほどの申し込みがないものもある。こういったところについては、関係する方々に現状、思い、悩みなど改めて話を聞きながら、必要な対策を検討し、取り組む必要があるものについては今後も展開・実施を考えていきたい。

Q 2. 市長の任期が残り少なくなってきたが、来年の課題として考えていることがあれば伺いたい。

A 2. 新型コロナウイルス感染症について、感染拡大防止・様々な影響を受けている方々への支援をしっかりと展開していくことはもちろん、国においてワクチンが確保できた際には、住民の皆さんにすみやかに接種を受けていただけるように取り組んでいかなければならない。そのほかの市政の中期的な課題としては、少子高齢化・人口減少がある。これらの克服を目指した地方創生の取組については、新型コロナウイルス感染症の影響下でも出来るところに取り組んできた。しかし今後、団塊世代の方々が75歳以上の後期高齢になられる時期も迫り、また人口減少についても自然減がかなり進んできている中、高齢化の対策、また社会動態、つまり移住定住もしっかりと受け入れていける対策も強化していかなければならない。また、財政の課題についても、今年度をもって合併市として受けてきた様々な優遇措置の期限が切れるという状況の中、市が保有している各公共施設の中には老朽化が目立ってきているものもある。こういったものについては、長寿命化・場合によっては再編・統合も考えていかなければならないと考えている。これらの具体的な取組を取りまとめた公共施設の個別施設計画の策定を進めている。これらの計画をしっかり策定し、定めた内容を進めていけるよう皆さんへ丁寧な説明をし、ご理解いただき、力を合わせながら様々な課題について乗り越えていきたい。

Q 3. 成人式について、新型コロナウイルス感染症の状況が変わった場合、変更することはあるのか。また、AR を用いた写真を撮る際マスクをはずすと思うが、滞在時間や使い方について新成人には注意喚起するのか。

A 3. 成人式の新型コロナウイルス感染症対策としては、例年実施していたアトラクションや交通安全宣言を省くなど、式典そのものの時間を短縮し、来賓の数を減らし、会場もしっかり間隔を取り、密な状態にならないように配慮する。また、ライブ配信の実施、来場した新成人と家族の動線を完全に分けるなどの対応をすることになっている。しかし、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、例えば市内で大規模なクラスターが発生し、その感染ルートがはっきりしないなど、緊急度を上げなければならないような緊急事態が発生した場合については、状況をしっかり踏まえたうえで実施の有無を判断することになる。ご来場いただいた方々に感染防止対策の徹底をお願いするとともに、新成人の方々にも節度ある行動をお願いし、安全にみんなが楽しめる成人式にできたらと考えている。

Q 4. 市長の任期が残り1年を切ったが、選挙の際に掲げた主な公約の達成率や、残り1年でこの項目だけは成し遂げたいというものがあれば伺いたい。

A 4. 掲げていた公約のうち、新斎場の整備やクロスベイ新湊のオープンなど、ハード事業については市民の皆様・関係の皆様のご協力・ご理解をいただく中で順調に進めることができたと考えている。本年度がスタートとなった第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略や都市計画マスタープラン、公共交通網形成計画など、本市のまちづくり・ひとづくりに関する多くの計画についても策定・見直しをし、スタートすることができた。新型コロナウイルス感染症の影響で当初考えていた状況と現状が変わってしまっているものもあるが、計画の見直しを図りながら、目標とする事業の達成に向けてよりよい計画・事業の実施をしていきたい。また、人口減少の克服や地域活性化といった地方創生の取組、合併市に与えられた様々な財政措置の今年度での終了という状況の中で課題も多くあるものと認識している。強固な財政基盤・健全な財政を堅持するためにも、公共施設の適正配置については待ったなしの状況だと考えている。しっかりと市民の皆さんに説明をしながら、またご意見を頂戴しながら、よりよい方法を生み出していけるように個別施設計画の策定などにも取り組んでいきたい。やり残していることについては、新型コロナウイルス感染症の影響については、今後も刻々と状況が変わっていくと考えているが、市民の皆さんにしっかりと寄り添いながら、また市内事業者の方々のいろんなご意見なども聞きながら、市としてやるべきこと・やらなければならないことはもちろん、適時適切に迅速に対応できるよう市民の皆さんと力を合わせてこの困難を乗り越えていけるように取り組んでいきたい。

Q 5. 公約の筆頭に「旧新湊庁舎跡地利活用」を掲げていたが、第一イン新湊の旧商工会議所会館跡地への移転に関しては、以前の発表の通り前向きに進める方向なのか。

A 5. 先般の役員会の中間報告会では、予定通り進めていくという話があった。また、現在の第一イン新湊の経営については、大変厳しい状況だという報告があり、今後の事業の在り方や運営形態についてはいろんな意見が出た。今後、ホテルの開業に向けしっかり内容を詰めていく状況にある。

Q 6. 新型コロナウイルス感染症について、春以降、射水市では感染者は累計何人になったか。

A 6. 射水市内で確認された陽性患者の数は現在15人である。感染経路についてわかっている方もいるが、中にははっきりしない方もいるので、市民の皆さんには緊張感をもう一段高めていただきながら、感染防止対策、「新しい生活様式」の徹底に努めていただくようお願いしたい。

Q 7. 新型コロナウイルス感染症関連対策に使える国の臨時交付金の残額にはまだ余裕はあるか。

A 7. 新型コロナウイルス感染症関連対策の地方創生臨時交付金の残額については、今般12月定例議会に提案する補正予算案をもって全額計上することになる。可決されれば射水市に配布された額はすべて活用することになる。

Q 8. 成人式について、県外にいる新成人の方に対し、「戻ってこないでください」という趣旨のものではないと理解してよいか。

A 8. 年末年始を迎えるに当たって、帰省を考えている方もあり、新成人の方についても予定通り1月10日に成人式を実施するとご案内することになっている。その際に、こちらへの帰省を自粛してほしいということまでは言うつもりはない。しかし、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し、特に大都市を中心にかなり多くの感染が確認されている状況なので、県外在住の新成人の方々には慎重にご判断いただき、帰省される場合には対策を十分に取り、安全を確保することをお願いしたい。

Q 9. 成人式について、感染防止という観点からすると、式そのものよりもその後の会食などのほうがリスクが高いと思われるが、そういったことに対し自粛を呼びかけたりはするのかわ。

A 9. 式典後の会食の際においても、新成人としての自覚を持って、飲食をするとき以外はマスクを着用する、お酌やコップの共有などは避けるなど、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して会食していただくなど、それぞれが節度を持って行動をしていただくようお願いしたい。